

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日：2024年02月06日

事業所名：Orange西延末

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	基準となっているガイドラインに比べても広いスペースを確保している。保護者や児童がいつでも施設設備や活動スペースが確認できるようにリモート内見システムを取り入れている。	100%が「はい」と回答	今後も、児童が安心して活動できるスペースの確保に取り組んでいく。
	2 職員の適切な配置	基準2名を大きく上回る配置を行い、かつ9割を正社員の配置としている。専門性についても10年以上障害福祉を専門にきた職員や他事業所への施設支援や講演会を行う職員、経験豊富な専門職員を配置している。	97%が「はい」と回答	職員のスキルアップや成長に向けて、職員の経験年数にあった事業所内研修を行うなど、専門性について今後も高めていく。
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	階段はあるものの室内に関してはできるだけバリアフリーを徹底している。休憩室や作業訓練室など、多くの部屋やスペースを場所によって用途を使い分けている。	100%が「はい」と回答	作業練習の教具・教材なども職員だけでなく児童にとってもわかりやすい、物の配置を検討していく。また、児童がけがをしないように、ヒヤリハットなどを活動しながら職員の意識を徹底していく。
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	アルコール消毒や次亜塩素酸ナトリウムでの消毒を実施。児童への手洗いの徹底と指導を行っており、手洗い場はペーパータオルを設置するなど衛生面の対策を徹底している。	100%が「はい」と回答	インフルエンザやノロウイルス等に加え、コロナウイルス対策として換気や消毒に、これまで通り取り組んでいく。
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	毎週会議を行い、改善すべき点を共有し日々業務の改善に努めている。好事例を年ごと取りまとめ、次年度以降の支援の参考にしている。		会議などで情報共有されている。保護者様からの意見も可能な限り反映していく。業務ごとに係を設け必要に応じて常に改善を行っている。
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	他事業所との交流などから必要な意見を取り入れ、よりよい業務ができるよう改善を行っている		今後も積極的な外部評価を取り入れていきたい。
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	県や市への研修の参加、事業所内研修だけでなく、他事業所とも連携し、勉強会をしている。事業所内会議で事例検討を行い、職員の知識・資質の向上を計っている。		外部研修では、職員の希望があれば、研修への参加出来るように努めている。事業所内研修では、今年度から始まった勉強会の内容を見直し、バージョンアップを図ることで、時代や現状に沿った研修を行い続ける。
適切な支援の提供	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	契約時とその後も随時行っており、相談支援員の計画とすり合わせて作成している。	100%が「はい」と回答	事業所内研修などでアセスメントの取り方の勉強を行っていき、より詳しく正確にアセスメントがとれるように努力していく。
	2 子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	随時見直しを行い、各ケースの情報共有している。毎週の会議に加え、期毎に全員で計画達成について振り返り時期計画について必要な支援ができるよう話し合っている	100%が「はい」と回答	新規ケースなどで状況の把握が不十分であった可能性があるため、関係機関と連携等情報を得る努力をする。
	3 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	アセスメントをもとに、職員と情報共有をして、支援に反映させている。	100%が「はい」と回答	支援計画についてより詳細に記載して、保護者への説明を分かりやすくするように努力する。
適切な支援の提供(続き)	4 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	個別支援計画に基づいて支援を行っている。職員全員が全ての児童の個別支援計画に目を通し、支援に当たっている。支援が計画に沿っているか、適切かは随時見直しを行っている。	100%が「はい」と回答	結果に満足せずこれからも計画・支援を行っていく
	5 チーム全体での活動プログラムの立案	担当制ではあるものの全員で支援を考えている。イベントなども季節に合った行事などを全員で考えている。各利用者の特性に合わせて、一律ではなく複数の活動が提案され、児童にとって必要な活動は費用がかかっても積極的に採用している。		これからも児童にとって必要な支援については、積極的に計画、立案していく。
	6 平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	各家庭の都合を考慮しながら可能な限り、保護者、利用者のニーズに合わせて支援を行っている。長期休暇を利用し学校行事の不安解消のための下見や体験なども行っている		現状に満足せず、保護者や利用者の実情やニーズに合わせたきめ細やかな支援を可能な限り充実させていく。
	7 活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	季節や子供の課題に合わせて、プログラムを柔軟に変更している。プログラムが子供にとって適切なものであるかどうかは随時見直ししている。	100%が「はい」と回答	特に自閉症スペクトラムの児童など特性的に毎日変化させるのではなく見直しを持たせて予定を伝えてほしいという方もいるが、変動する予定や柔軟なプログラムにも対応できる力をつけられるようこれからも取り組む。また、年齢にあった活動や取り組みを職員全体で引き続き意識していく。
	8 支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	どの職員がどの役割を分担するかなどが徹底して伝えている。その日の体調や学校での特記事項もビジネスチャットなどを活用しリアルタイムで全員に共有されている。		現状に満足せず、支援内容や事業所、家族、学校などの役割分担が本当に適正か、見直しを随時行っていく。
	9 支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	業務日誌のみでなく、口頭やビジネスチャットなどでも日々引き継ぎを行っている。すべての職員がどのような活動が行われたかを振り返ることが出来るようにしている。		集めた情報から、必要なものは文字起こしして共有し、会議で共有している。
10 日々の支援についての正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	日々の支援は、利用者によっている連絡帳や業務日誌をもとに記録をつくっている。週に一回の会議にて、支援の確認や情報共有、見直しを行っている		チェックをしながら、会議の中で出た改善点を、日々の支援に反映していくことを続けていく。	
11 定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	定期的なモニタリングのみではなくご自宅への送迎の中でも、保護者とお話する時間があり、支援に繋げている。個別懇談だけではなく緊急時は支援会議を要請し支援計画の見直しなども行っている。		関係機関と連携し、児童の情報を細かく共有していく。	

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
関係機関との連携	1 子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議へ参画	児童発達支援管理責任者のみではなく、その児童に主にかかわっている職員が担当者会議に出られるよう配慮し、活きた情報の共有ができるようにしている。積極的に情報共有も行い、児童のより良い支援につなげる。		現状に満足せず職員間で連携し、情報共有を進めていく。
	2 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施	該当なし		該当なし
	3 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備	該当なし		該当なし
	4 児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間の支援内容等の十分な情報共有	特に連絡帳等を活用し、必要な児童には水分摂取の時間やトイレの時間等も細かく伝え、スムーズに連携が行えるよう努力している。必要な場合、日ごろの様子などの情報共有を行っている。要請があれば学校の様子を見せてもらいアドバイスをを行っている。		現状の報告で足りていない部分がある場合は、学校等と話をし、必要な情報の共有をおこなっている。
	5 放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供、	児童の進路に合わせて割りばし作業やさきり作業、蓋閉めやねじ締めなどの作業訓練などを実施。就職予定の作業所と連携し作業を行うこともある。その作業の様子は就職先に情報提供を行っているようにしている。		本人の情報を学校や相談支援と一緒にまとめて、今後利用するであろう施設への情報提供をしている。
	6 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	研修の情報を収集し、必要な研修には積極的に参加できるように会議などで共有している。職員の専門性を高めるため専門分野に特化した研修も取り入れている。		必要な研修には、今以上に積極的に参加できるように取り組んでいく。
	7 児等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	障害のあるなしに関わらず地域に出て社会経験をさせる機会を作っているが、特に行事等で積極的に交流を持つことはしていない	42%が「はい」と回答 「どちらともいえない」が3% 「いいえ」が9% わからないが39% 必要ない6%	他の放課後デイサービスや事業所、地域との交流、定型発達児との支援などを進めていたが、十分ではなかった。また、交流を行う場合には事前に保護者への確認や行った内容についてのお便りやHPなどを活用して周知していく。
	8 事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	自治会への参加、地域住民との挨拶など、地域の人とかかわり、活動を理解してもらう努力をしている。	ご意見 特に必要があると思っていないので、なくても良いと思っています。 その支援は特に必要といたしません。	現状は不十分であるため、地域住民と関わりを持つことで、地域の特色をキャッチして、行事を行えるように努めていきたい。
保護者への説明責任・連携支援	1 支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	保護者にも契約時に説明を行い、別途費用が発生するものに関しては事前の説明を行っている保護者に選択してもらう。	100%が「はい」と回答	現状に満足せず、今後も説明等徹底していく。
	2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	定期的な個別懇談会にて、計画を示しながら説明をおこなっている。	100%が「はい」と回答	定期的な懇談のみでなく、児童の状態や保護者の必要性があればお話をするようにしている。緊急時には随時、計画の見直しをできるようにしている
	3 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	必要な児童には課題の取り組み方や関わり方の専門的な知識を教えるなど、保護者支援も含めて取り組んでいる。	79%が「はい」「どちらともいえない」3% 「いいえ」6% 「わからない」12%	現状は児童の様子などから必要な保護者様のみ支援を行っている。Orangeの活動だけでなく、生活場面でも照らし合わせたアドバイスをできるようにしていく。今後は、保護者対象の研修会や講演会の実施なども検討していく。
	4 子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	送迎時に保護者と児童に関して積極的に情報共有している。保護者との密な連携が出来るように、送迎時だけでなく必要な場合、メールでのやり取りなどで情報共有できる努力をしている。	100%が「はい」と回答 ご意見 写真付きでその日の様子や活動を報告してもらるので、状況がよく分かります。 など	現状に満足せず、家庭状況に応じて可能な限り保護者の意見を取り入れることが出来るように努力していく。
	5 保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	面談等を通じて保護者の悩みなどを聞き取り対応を伝え、必要に応じて関係機関と連携していく。	100%が「はい」と回答	現状に満足せず必要な助言ができるように努める。
	6 父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	希望者には実施しているが、現状積極的に実施はしていない。	40%が「はい」と回答 「どちらともいえない」6% 「いいえ」21% 「わからない」27% ご意見 保護者同士の連携は必要だと思いますので、なくて良いと思っています。 その機会が必要といたしません。	保護者の意見として、実施しないでもいいという声が多い。利用を公にしている児童もいるため状況に応じて検討していく。
	7 子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	事業所内で対応を共有、確認し、苦情発生当日にできるだけ迅速に対応している。苦情内容によっては保護者への周知も行い、市役所など公的機関への報告も行う	88%が「はい」と回答 「わからない」12% (※保護者からの苦情なし)	苦情対応マニュアルをもとに、迅速に報告をおこない、苦情が起きないように会議で検討等出して気を付けていく。必要であれば個人情報などに留意しながら苦情対応・内容などを保護者にも報告する。
	8 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	それぞれの障害特性にあった意思伝達(口頭で伝えるのではなく可視化するなど)の方法を配慮している。	100%が「はい」と回答	保護者に、児童と情報を伝達し合うための方法を教えたり、支援した結果について共有する。または、関係機関と連携を図り、一緒に連絡する形を作っていく。
	9 定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	ブログや月に一度の活動のお知らせ、写真付き連絡帳や持ち帰った作品などで活動概要がわかるように配慮している。また、台風等、季節ごとの開所等の発信もおこなっている。	100%が「はい」と回答	積極的に発信してきた。また内容もその時に合わせたものを検討していく。今後も月1度のホームページの更新と会報を配布していく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
	10 個人情報の取扱いに対する十分な対応	個人情報については鍵の付いた書庫で管理し、書類の持ち出しなどはしないように徹底している。個人情報の特定期間には目隠しをするなど来客時の対応も徹底している。	100%が「はい」と回答	会議にて、職員間でも個人情報の取扱いに十分注意するように周知する。今後も継続して行っていく。
非常時等の対応	1 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	契約時に、すべてのマニュアルを保護者に説明している。またすべての職員が見れる場所に各マニュアルを保管し、会議でも話しあっている。	97%が「はい」と回答 「わからない」3%	新たな災害の情報や感染症の報道等含めて、随時マニュアルの見直し、職員間での周知徹底を継続していく。
	2 非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	年に2回児童も含めた避難訓練の練習も定期的に行っている。曜日によって参加できなかった児童には防災プラザなどでの避難体験などを実施し災害の発生に備えている。	88%が「はい」と回答 「どちらともいえない」3% 「わからない」9%	年3回の訓練のみでなく、防災センターの活用などを行っているものの、周知がきれていない部分があった。今後は、年に二回程お便りを活用して非常災害時の対応や避難訓練実施の周知を務めていく。
	3 虐待を防止するための職員研修機会の確保等の適切な対応	虐待研修などを受けてるように指導しており、今年度も全員が虐待研修に参加している。		今後も意識の向上に努め、日々の支援を見直し積極的に研修を受けていく。また、外部研修を内部研修にも落とし込んでいく。
	4 やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明、了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	契約時に十分に説明を行い、重要事項説明書に記載している。		重要事項説明書は保護者が見れるように掲示を行っている。説明をこれからも徹底していく。
	5 食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	囁託協力機関と連携し、重篤なアレルギーを持つ子供の対応については、指示を仰ぐ。		アレルギー症状に関しては今後も契約時などに保護者に聞き取りを行う。
	6 ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	ヒヤリハット事例は事業所内で作成し、会議で情報共有をし、検討している。個人情報にかかるとは鍵付きの書庫で管理している。		今後も事故のないように意識の向上に努め、ヒヤリハットの共有、検討を行っていく。
満足度	1 子どもは通所を楽しみにしているか		97%が「はい」と回答 ご意見: とても楽しみにしています。行く前日から明日はオレンジ！と嬉しそうにしています。 オレンジから帰宅した日は、機嫌がよく、活動に満足している様子が見られます。 など	現状に満足せず、児童の年齢や課題に合わせた支援をその都度考えいく。
	2 事業所の支援に満足しているか		100%が「はい」と回答 ご意見: いつも丁寧に対応していただき、満足しています。 子供達の事をよく考えてくださっているの、感謝しています。など	現状に満足せず、児童の年齢や課題に合わせた支援をその都度考えいく。